

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域を含む理念を追加している。理念の共有・理念に沿った支援が行えるよう努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に共有し、努力を続けている。	○	理念の実施に向け、日々向上するよう取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、ほのぼの(グループホーム誌)に理念を入れ、理解していただけるようにしている。地域の人にも運営会の時、説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の人々に挨拶をしている。お隣の人に切り花をいただく事がある。運営会の時、声かけを行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会・婦人会・民生委員の方々に声かけし、お食事会を開いている。	○	もっと気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	お食事会・敬老会に参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解し改善できるものは努力して取り組んでいる。	○	評価に対し、一つでも多く改善していきたい。自己評価した内容を職員間で共有し、また、協力して改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の席でサービスの実際や評価について話をさせてもらっている。	○	まだまだ内容の充実はできないが2ヶ月に1回の開催をしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員とか介護保険課・生活保護課の方々とも利用者の事など相談している。	○	今後も続けていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットとか本などを参考に、勉強するが全職員の理解はまだまだ不十分であると思う。	○	必要な方に活用できるように勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない介護に努めています。職員間で話し合ったり包括の職員にお話をしていただいたり防止に努めている。	○	今後も続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をさせていただいているつもりですので、理解・納得はされていると思います。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員に対して意見・不満・苦情を表せている部分もありますが、不十分だと思います。	○ 利用者がいつでも不満・意見が表せるように信頼関係を深めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームだより「ほのぼの」を発行しています。面会時には必ず報告するようにしています。金銭出納帳は定期的に確認してもらっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を作っています。(意見箱の設置と苦情担当の提示) 運営推進会への参加の呼びかけ。	○ 推進会を定期的に行って参加を呼びかけています。少しでも多くの方に意見を出してもらいたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員より意見を聞いている。その上で可能な限り、反映できるよう努力している。	○ 職員間の意見をまとめ運営者に全体的にもっと具体的な話し合いができたかと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は必要に応じてその都度行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとの職員の異動は最低限に抑えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員より希望があれば研修への参加を認めている。法人内の研修会にも出席してもらうように指導している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加し、積極的に勉強会に参加してもらうよう指導している。	○ 他のグループホームとの交流を活発に行えるよう計画を立て職員の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で定期的に食事会を開いている。フットサルチームを作っており、自由な参加を募っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々を人事考課において評価し、モチベーションを上げられるように努力している。	○ 定期的に職員を集め、ミーティングを行い各自がスキルアップできるようにしていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前はホーム内の案内と説明をする程度で、以来関係を築くまでには至っていない。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約書を結ぶ時に不安なこと・求めていること等をお話させてもらっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ソーシャルワーカー、相談員、ケアマネジャー等からの情報をもとに、ホームにてどのように意向にそった支援ができていくかを考える。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の日常生活、生活歴、趣味、嗜好などより多くの情報を家族からいただき、少しずつ自然にホームに慣れていただけるよう、配慮・工夫している。	○	生活歴等を少しずつ聞かせてもらいながら、よい方法を見つける努力をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの行事・習慣や遊び等、共に楽しみ洗濯物をたたんでもらったり、お膳を拭くなど共に家事を行っている。	○	もっと多く関わりを持って、共に支え合いよい関係を作っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会への参加をお願いし、共にお話を聞いたり行事に参加して楽しんだりしながら関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会を多くしていただいたり、来られない場合は電話・手紙等での連絡をしていただけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、近所の方々の面会の自由、外出・外泊等利用者の希望をできるだけ聞けるよう努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く支えあえるように努力しているが、個々の事情により難しい状況の方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で退居されたり、在宅復帰された本人や家族に声をかけ、近況を伺ったりなかにはボランティアとして退居された後も関わって下さっている家族もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声かけや話し合いを持ち、また、意思や希望を伝えることが苦手だったり、困難な方に対しては、職員や家族との関わりの中で見つけていくよう努めている。	○	本人の希望にそえない場合でも、家族との話し合いを持ち少しでも希望に近づける努力をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に話を聞かせてもらい、少しずつ理解していくよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日一日の過ごし方・心身状態、できること等を総合的に見守りながら把握している。	○	良くも悪くも、毎日同じ過ごし方をされている。もう少し前向きに過ごせるよう努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を第一に計画作成しているモニタリング・カンファレンスを開催し、計画の達成度や今後のケアについて検討している。必要に応じて医師や栄養士等の助言を聞く。	○	日々の生活の中で本人の意向を十分に聞き出し、また家族には本人の状況を説明し意向を聞いていく。他職種間の連絡も作成に活かしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて見直しを行っている。状態に変化があり、あまりにもプランとかけはなれた場合や、目標に近づけなかった時などは本人・家族の意見を聞くと共に話し合いをし、プランを変更している。作り直すタイミングが遅れることもある。	○	常に介護計画が現状に即しているのか職員間で話し合い、変化があれば新しい計画を作成できるよう努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を書き、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老人保健施設の日曜日等の利用。 デイサービスと共に行事を行ったり、また緊急時の対応の早さ等を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民児委員、ボランティア、消防等と協力して支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所等の時、ソーシャルワーカー・支援事業所・役場等との話し合いで支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡を取り、本人の必要性に応じた支援をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人である母体での受診、他の歯科、眼科、その他の医療機関への受診もサポートしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の往診があり、相談しアドバイスも受けている。主治医にも相談・アドバイスを受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師に健康管理や日常のアドバイスをいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院・退院等について、病院との情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、または終末期のあり方について、文章で確認してもらっている。また、状態が悪くなれば家族の方への連絡や病院と連絡をとり話している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けて、ホームでできること・できないことを見極め、医師や看護師と相談しながら支援するようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時、自宅や他施設に移り住む際、十分な情報提供をしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対する言葉かけや、対応について話し合いをしたりするが、まだ十分とはいえない。	○ もっと話す機会を作り、職員の質の向上をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望をできるだけ聞き、自分で判断できる事は、判断できるよう支援している。	○ 全ての利用者の思いをかなえられていない。できるだけ多く実行していけるように努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のそばでの見守り・声かけをさりげなく行っている。ドライブに行ける日は出掛けている。時々、職員の都合を優先してしまう日もあり、十分ではない。	○ 職員間で話し合いを行い、一人ひとりのペースを大切にしていけるように、利用者の希望も聞きながら支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容については、本人に聞きながらホーム内、または地域や馴染みの理容室・美容室に出掛ける。服装についても、自分で判断できる方は買い物支援、家の方の支援で楽しんでいる。	○ 整容について、個々に気をつけて見てあげられるよう支援したい。(今までより多く)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事の時、好みの物を作ったりいつもと違った弁当を食べてもらったり、たらいうどんを食べに行ったりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望と家族の希望があわず、調整するのに苦労していますが、状況に合わせて支援しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はトイレを使用するよう声かけし、夜間は排泄の声かけをしたり見守りをしています。また、便失禁の時等、シャワー浴を行ったりしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ個々に合わせた入浴支援をしているが、なかなか入浴してもらえない方もあり、いろいろと努力しています。	○	声かけのタイミング、お話をしながら入浴の誘導、対応する職員の交代など、職員間で共有しながら入浴支援しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほとんどの人がよく眠られています。昼間の状態等で眠れない方はお話をしたりテレビを見ていただいたりして支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野山や寺社へのドライブ・花見・スーパーでの買い物等、外出の機会を増やしたり、室内ではカラオケ・コーラス・体操等を楽しみ、洗濯たたみ・台拭き・花の水やり等、役割を持てるよう支援している。	○	個人的対応が少ないので、もっと考え、楽しみを増やしていきたいです。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は本人が持ち、買い物の支払い等は自分でしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先に椅子等を持ち出し、お花を見たり日光浴をしながらおしゃべりを楽しまれている。また、散歩に出掛けたりしている。	○	できるだけ多くでかけられるように続けていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	人形浄瑠璃を見に出掛けることができました。	○	今後も機会をみつけて参加したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、かかって来たりその都度対応しています。手紙も出せるよう支援していきます。(年賀状等)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただいている。居室でゆっくり話をされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて話し合いをし、記録をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺の交通量も多く、施錠しているが、職員が見守りできる時は鍵をかけないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は居室への訪室には必ずノックをして入室、声かけを行う。また、不在時には所在を確認する。夜間はそっと見守りを行う。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりに合った物品を確認している。(状態悪くなり、自己にて管理できないようになればその時に対応する)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	話し合いを行い、職員一人ひとりが気を付けている。	○	一日一日の入居者の状態を把握し、所在や様子を注意し事故防止に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行えてないが、勉強会や講習会に参加している。	○	他の職種との連携をとり一つでも勉強会を増やしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は行っている。 災害時における一時避難場所を地域の方にお願ひし、確保している。	○	働きかけを続けていきたい(運営推進会議等)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時には起こるかもしれないリスクについて説明している。 また、その都度説明しなければいけない事については説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調について医療連携によって訪問看護の方の指示や毎日のバイタルチェック、または観察によって気付き受診または処置を行っている。 家族への連絡も行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服作用・用法等、薬局の説明等のファイルをしており、また訪問看護師の説明も受けている。	○	薬について話し合いをしているが、全職員が何の薬を飲み、用法等理解できるよう、もっと努力し症状の変化にも早期対応できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、また、本人の訴えにより飲み物・薬等の調整をしている。 体を動かす事の支援もしている。 食事量のチェック・下腹の張り具合・水分量など、状態を観察し訪問看護師と相談・対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	洗面所への誘導・介護・見守り、また声かけによる支援をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量・水分量チェックまたは体重の変化のチェックを行い、医師や看護師に相談・指示を受け支援している。声かけや形態の工夫をしている。	○	難しく上手くいかないことが多いが色々と工夫しながら、摂取していただけるよう支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ると、うがい・手洗いの声かけ・見守り等行っている。 インフルエンザの予防接種を実施している。 発生時の早期対応の話し合い・勉強会を行っている。 今年は発生なし(ノロウイルス)。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員一人ひとりが気を付け器具・台所・食材の取り扱いを注意している。食器等の定期的な漂白・冷蔵庫内の整理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりの花がいつもきれいである。 裏口の通路も通りやすく、また花も楽しめる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の花、廊下やホールの壁等へ季節感のある物を掲示したり、食事の時のにおいや音も楽しめる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ・玄関の椅子・玄関先の机等利用し、思い思いに過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からのプレゼント、ホームでの生活の写真、家から持ってこられたテレビや服等居心地よい工夫をしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、温度調整は利用者の方に合わせながら行っています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置(ホール・浴室・廊下等) 玄関や裏口のスロープ。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の目印、トイレ・浴室等の絵標示等をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	野菜作りを楽しまれている。 日光浴・会話の場所として利用。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ADLの低下防止の為に体操
- ・必要に応じての外出